

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態																																										
クリティカルケア看護学演習Ⅱ(疼痛緩和)	1	後期	2	演習 60時間																																										
担当教員	松本幸枝、中島洋一、路璐、酒井武志、丸山陸、千葉恵子、小島朗、松谷典洋																																													
授業概要	クリティカル状況下にある対象者やその家族を含む苦痛や苦悩を理解し、エビデンスに基づいた疼痛緩和や軽減する方法を学修する。																																													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカル状況下にある対象者やその家族にもたらす全人的な苦痛・苦悩について学び、説明できる。 2. 苦痛を軽減、または緩和するための方法、処置を学び、効果判定についての実践力を養う。 																																													
履修条件	特になし																																													
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>クリティカル状況下にある患者の病の体験/苦悩について</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>疼痛のアセスメントと疼痛尺度</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>苦痛緩和・症状マネジメントに関する理論</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>安楽の評価とコンフォートケア</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>薬剤師による鎮痛管理/急性疼痛</td> <td>丸山</td> </tr> <tr> <td>11-12</td> <td>看護師による鎮痛管理/急性疼痛</td> <td>酒井</td> </tr> <tr> <td>13-14</td> <td>看護師による鎮痛管理/慢性疼痛</td> <td>千葉</td> </tr> <tr> <td>15-16</td> <td>クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/呼吸困難感</td> <td>松本</td> </tr> <tr> <td>17-18</td> <td>クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/倦怠感、浮腫</td> <td>小島</td> </tr> <tr> <td>19-20</td> <td>クリティカル状況下における対象者の精神的苦痛とコントロールの実際/抑うつ</td> <td>松谷</td> </tr> <tr> <td>21-24</td> <td>クリティカル状況下にある患者とその家族の苦痛と苦悩の理解(文献学習)</td> <td>松本・中島・路</td> </tr> <tr> <td>25-28</td> <td>クリティカル状況下における対象者の苦痛緩和のフィールドワーク</td> <td>松本・中島・路</td> </tr> <tr> <td>29-30</td> <td>課題：第1-28回で学んだ知識を活用し、苦痛を伴う患者及びその家族への介入事例をプレゼンテーションし、自己の看護について考察する</td> <td>松本・中島・路</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	担当教員	1-2	クリティカル状況下にある患者の病の体験/苦悩について	松本	3-4	疼痛のアセスメントと疼痛尺度	松本	5-6	苦痛緩和・症状マネジメントに関する理論	松本	7-8	安楽の評価とコンフォートケア	松本	9-10	薬剤師による鎮痛管理/急性疼痛	丸山	11-12	看護師による鎮痛管理/急性疼痛	酒井	13-14	看護師による鎮痛管理/慢性疼痛	千葉	15-16	クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/呼吸困難感	松本	17-18	クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/倦怠感、浮腫	小島	19-20	クリティカル状況下における対象者の精神的苦痛とコントロールの実際/抑うつ	松谷	21-24	クリティカル状況下にある患者とその家族の苦痛と苦悩の理解(文献学習)	松本・中島・路	25-28	クリティカル状況下における対象者の苦痛緩和のフィールドワーク	松本・中島・路	29-30	課題：第1-28回で学んだ知識を活用し、苦痛を伴う患者及びその家族への介入事例をプレゼンテーションし、自己の看護について考察する	松本・中島・路
回	内容	担当教員																																												
1-2	クリティカル状況下にある患者の病の体験/苦悩について	松本																																												
3-4	疼痛のアセスメントと疼痛尺度	松本																																												
5-6	苦痛緩和・症状マネジメントに関する理論	松本																																												
7-8	安楽の評価とコンフォートケア	松本																																												
9-10	薬剤師による鎮痛管理/急性疼痛	丸山																																												
11-12	看護師による鎮痛管理/急性疼痛	酒井																																												
13-14	看護師による鎮痛管理/慢性疼痛	千葉																																												
15-16	クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/呼吸困難感	松本																																												
17-18	クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/倦怠感、浮腫	小島																																												
19-20	クリティカル状況下における対象者の精神的苦痛とコントロールの実際/抑うつ	松谷																																												
21-24	クリティカル状況下にある患者とその家族の苦痛と苦悩の理解(文献学習)	松本・中島・路																																												
25-28	クリティカル状況下における対象者の苦痛緩和のフィールドワーク	松本・中島・路																																												
29-30	課題：第1-28回で学んだ知識を活用し、苦痛を伴う患者及びその家族への介入事例をプレゼンテーションし、自己の看護について考察する	松本・中島・路																																												
教科書	特に指定しない。																																													
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ Arther W.Frank/鈴木智之翻訳(2002)：THE WOUNDED STORYTELLER/傷ついた物語の語り手、ゆみる出版 ・ Arthur Kleinman/江口重幸訳(2015)：THE ILLESS NARRATIVES/病の語り、誠信書房 ・ 下地恒毅(2018)：痛みを和らげる科学、サイエンス・アイ新書 ・ 田口敏彦監修(2020)：疼痛医学、医学書院 ・ Jenny Strong/熊澤孝郎監訳(2010)：痛み学、名古屋大学出版会 ・ 適宜紹介 																																													
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)とし、総合的に評価する。																																													
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。																																													
備考	特になし																																													